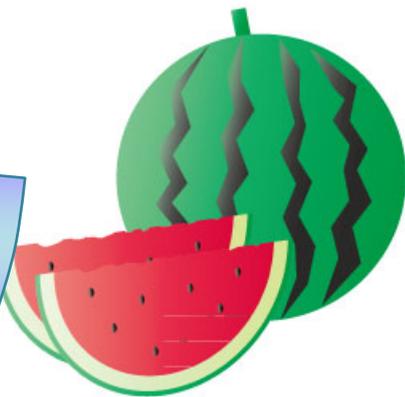




21世紀の森と広場

とんぐい



パークセンターだより 第134号 2015年8月・9月

水辺の忍者たち ～アメンボとその仲間～

自然解説員
室 紀 行

雨が降り続く梅雨も明けて、暑い夏がやってきました。晴れが続くと空気がカラカラに乾いて、虫たちも夏バテしてしまいます。しかし、公園のあちこちにある水辺には、この日差しの中でも元気な虫たちがいます。水面を滑るように泳ぐこの虫は、みなさんご存じのアメンボです（図1）。いろいろな水辺にいる身近な虫ですが、じっくり観察するととても面白い生き物ですよ。



図1 ヒメアメンボ

アメンボは長い脚で水面を滑るように泳ぎ、水に落ちた虫を食べる肉食の昆虫です（図2）。水辺の虫ですが、上手く体を濡らさずに暮らしています。脚の先には細かい毛がびっしりと生えていて、これに脂を塗りつけることで水を弾いて水面に浮いているそうです。水に浮いたアメンボの影を見たことはありませんか？脚先で触れた水面が凹んでいるので、面白い形の影ができあがります。



図2 トンボを食べる
アメンボ

アメンボについて話すとよく驚かれることがいくつもあります。まず一つは、アメンボは飛べるといことです。細長い体をよく見ると、背中に翅が畳み込まれています。いつの間にか水たまりに現れるアメンボは、この翅で飛んで水辺を探していたのです。二つ目は、アメンボがカメムシの仲間だということです。なかなかイメージが合わないかもしれませんが、顔つきを見るとそっくりです。カメムシといえはあのおいですが、アメンボもおいをもっています。ただし、ほんのり甘い不思議な香りです。アメンボという名前も、飴のおいがする虫、という意味でつけられたと言われています。最後の一つは、アメンボにもいろいろな種類がいるということです。実はこの公園だけでも7種類のアメンボが住んでいます。ではここで、園内のアメンボたちを紹介してみましょう。

公園の真ん中にある千駄堀池など、大きな水辺にいるのは「アメンボ（ナミアメンボ）」というアメンボです。この公園では一番大きなアメンボで、遠くからでもすいすいと泳ぐ様子を眺めることができます。小さな池や田んぼにいる一回り小さなアメンボは「ヒメアメンボ」です。アメンボと一緒にいることもあります。田んぼなど季節によって水がなくなる場所ではこちらの方が多いかもしれません。光と風の広場を流れる小川で泳いでいるのは、「シマアメンボ（図3）」という変わった形のアメンボです。まん丸なシマアメンボは川だけで暮らす種類



図3 シマアメンボ

で、いつも流れに逆らって泳いでいます。つどいの広場の東屋近くの池にいるのは「ヤスマツアメンボ（図4）」です。ヒメアメンボによく似ていますが、

こちらは体の縁に縞模様があります。木立に覆われた薄暗い水面が好きなようで、園内では山裾の水辺でしか見つかりません。

残る3種類は、ほとんど見られないアメ



図4 ヤスマツアメンボ

ンボです。まず「エサキアメンボ(図 5)」
と「ババアメンボ」ですが、これらは変
わった場所に住んでいます。千駄堀池の
沖を眺めると、ヨシやマコモが青々と茂
っていますね。実はこの2種類は、この
藪の中の水面だけで暮らしています。ど
ちらも小さなアメンボで、可愛らしい姿



図 5 エサキアメンボ

です。このような住みかが減ってきているため、絶滅危惧種に指定さ
れているようです。最後の1種類は、なんと外来種のアメンボです。
「トガリアメンボ」という名前で、東南アジアから水草と一緒に連れ
て来られてしまいました。まだ1頭が見つかっただけなので公園では
増えていないようですが、いつの日か当
たり前に見られる虫になってしまうかも
しれません。

そのほかの親戚を紹介すると、ゴマ粒
より小さいカタビロアメンボ(図 6)、水
辺をのそのそと歩くイトアメンボ、水面
を素早く走るミズカメムシ(図 7)など、
様々な大きさや形をした仲間がいます。
もちろん園内で見ることができますよ。

身近に見慣れたアメンボですが、こん
なにいろいろな種類が、自分の好きな場
所を選んで暮らしています。それぞれの
アメンボは何を食べるのでしょうか？ど
んなふうに泳ぐのでしょうか？どこに卵
を産むのでしょうか？散策の歩みを少し
だけ止めて、水辺の忍者たちをゆっくり
観察してみると、新しい発見があるかも
しれません。



図 6 ケシカタビロアメンボ



図 7 ヘリグロミズカメムシ



次回のドコでもシアターは9月26日
(土)に開催です。お楽しみに



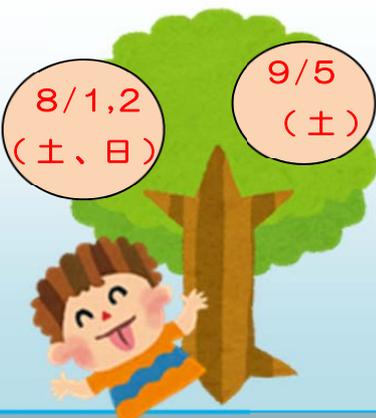
ドンちゃん・グリちゃんの自然展

～めぐってみよう×やってみよう～

7月24日（金）～8月23日（日）月曜休館

パークセンター8月・9月の催し物

講座名	日時	定員	講師	費用	受付
秋冬に向けた野菜づくり	8月2日(日) 13:30～15:00	50	みどりの相談員 橋本 倉司氏	無料	7月15日から
播いてみよう草花の種子を!	9月5日(土) 13:30～15:00	24	みどりの相談員 秋元 満司氏	500円	8月15日から
バラの年間管理	9月9日(水) 13:30～15:00	50	坂野ガーデン 坂野 郁子氏	無料	8月15日から
自然観察入門～虫の世界をのぞきにいこう～	9月12日(土) 10:00～11:30	25	自然解説員 室 紀行氏	無料	8月15日から
野菜のタネまき実習～遅まきに挑戦～	9月16日(水) 13:30～15:00	25	自然解説員 野島 博氏	200円	8月15日から
多肉植物を楽しむ生活～イギリス西南端ミナックスアターの風景など	9月21日(月・祝) 13:30～15:30	70	ハーブ研究家 桐原 春子氏	無料	8月15日から
初秋の公園で会える鳥たち	9月27日(日) 10:00～11:30	25	自然解説員 直井 宏氏	無料	8月15日から



森のこども館のお知らせ

毎月第一土曜日に森の工芸館で「森のこども館」が開かれています。野菊野こども館のスタッフが、自然体験や工作など、自然の中での遊びを提供します。動きやすい服装で、ぜひ遊びにきてくださいね。

お問い合わせ：松戸市野菊野こども館
331-1144

秋の草花キキョウ

みどりの相談員
野口 宣二

秋の七草を連想するほどなじみ深く、

秋を彩る草花の一つである「キキョウ

ウ」は大衆性が高く、日本的で、優雅で品格の高い植物とされます。また、

明智光秀公の家紋として知られ歴史的にも深い親しみを感ずります。

花でよし、その根は生薬（痰をとも

なう咳・扁桃腺炎・排膿に効果がある）としても重要です。

もともと東アジアに多く自生していますが、わが国でもいたるところの山野に見られたものでしたが……。幸にこの植物はその捨てがたい美しさに加えて丈夫であるがゆえに繁殖しやすいので園芸的にも増殖されていることはせめてものなぐさめでしょう。

品種と栽培について

〔品種〕

○ウズギキョウ（渦キキョウ）

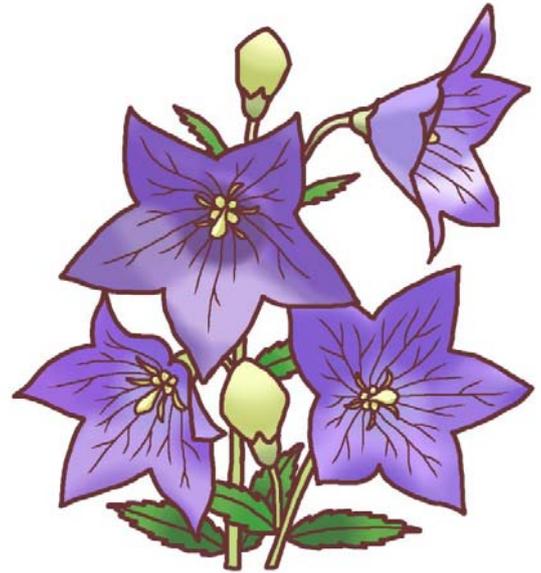
葉がちりめん状に縮れており、さらに葉の先端がねじれている。小型で紫・白・淡紫色がある。

○アポイギキョウ

北海道日高地方のアポイ岳周辺原産で10～30cm位の早咲矮性種

○五月雨キキョウ

園芸種で早咲き（7月頃から開花）で花色も豊富で栽培しやすく切花



にもよい。

〔栽培方法〕

株分けと実生が主ですが、つぼみがまだ着いていない若い茎ならばさし木もできます。「春まき」の実生は年内に開花しますが、「とりまき※①」の方が良いでしょう。

作りやすい植物で、日当たりの良い乾燥気味の場所を好みますが、どこに植えてもよくできます。特に土質の選り好みもなく、栽培しやすい植物です。ぜひ栽培してみてくださいはいかがでしょうか。

※1 とりまき・・・熟した種子をすぐに撒く方法

みどりの相談室

パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738

夏季営業時間延長のお知らせ

7月21日（火）～8月20日（木）の間は、公園の開園、各施設の開館時間が延長されます。

施設名	利用時間	休園等
公園	午前9時～午後6時30分	12月30日～1月1日
パークセンター	午前9時～午後6時	月曜日（祝日開館翌日休館）
自然観察舎	午前9時30分～午後6時	月曜日（祝日開館翌日休館）
カフェテラス	午前10時～午後6時	月曜日（祝日営業翌日休業）
アウトドアセンター （バーベキュー場）	午前9時～午後5時30分	木曜日（祝日営業）

くるくる回って空を旅するタネ

自然解説員
かとう ゆういち
加藤 裕一

カエデの仲間は、秋の紅葉がきれいなことで知られていますが、もう一つ、わかりやすい特徴があります。それは、タネがプロペラのような形をしていることです。21世紀の森と広場のつどいの広場のエリアでは、カエデの仲間のイロハモミジを特にたくさん見ることができます。イロハモミジの場合、タネが熟すのは秋から冬にかけてですが、今の季節でも形はもう出来ています。ぜひ見に行ってみましょう。きっと、写真①のような若いタネがたくさん見つかることでしょう。



写真①

このプロペラのような形のタネは、くるくる回って空を飛ぶタネとして有名です。秋までは写真①のような形をしていて、同じ形のものが2つセットになっていることが分かります。とても薄いタネですが、付け根の部分だけぷくっと膨らんでいます（その中に本当の“種子”が入っています）。紅葉して葉を落とす頃になると、タネは2つに分かれ、それぞれ風で飛ばされていきます。写真②は地面に落ちていたイロハモミジのタネです。よく見ると、薄い翼状の部分にはすじがたくさんあります。また、直線に近い辺の方は

少しだけ厚みがあり硬いのですが、丸みのあるもう一方の辺はとても薄くてつまむと曲がるほどです。実験してみると、2つセットのままでは回転してくれません。2つに分かれることで、はじめて回転するようになります。面白いですね。カエデの仲間は皆このような特徴を持っていますが、大きさや形は種類ごとに少しずつ違います（写真③）。

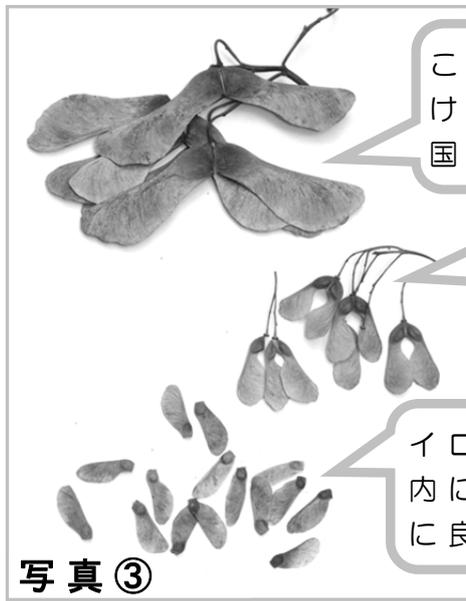
くるくる回転するタネは、カエデの仲間以外にもいくつか知られています。例えばマツの仲間があります。マツといえはまつぼっくりですが、そのまつぼっくりのすき間には、くるくる回るタネがたくさん入っていたのです。その他、シデの仲間もよく回転するタネをつけます。また、アオギリという樹木のタネも、回転することで有名です。ポダイジュやシナノキの仲間は、少し変わった形のタネをつけますが、やはりくるくる回ります。他にもいくつかありますので、図鑑で調べてみましょう。なお、この公園内で観察できるのは、イロハモミジ以外では、イヌシデやアカシデ、カツラなどがあります。



写真②

ところで、そもそも、回転することで、どんな利点があるのでしょうか？イロハモミジのタネを落としてみると、回転はするものの、ほ

ぼ真下に落ちていくだけで、全然遠くへひろがっていきません。一方で、地面に落ちるまでにかかる時間は格段に長くなります。回転するタネは、熟しても樹上にしばらくついている性質が強く、強い風が吹かないと落ちてきません。つまり、風が吹いている時に樹から離れ回転することで、風で遠くへと広がっていくのでしょうか。また、タネが回転する仕組みはどうなっているのでしょうか？こちらは物理学の分野で研究されていて、回転するタネに秘められた驚くべき仕組みがいくつも明らかにされてきています。何度も飛ばしてみても、仕組みを考えてみましょう。



こんなに大きなタネをつけるカエデもあります（外国のカエデの一種）。

トウカエデという種類です。街路樹としてよく植えられています。

イロハモミジです。この公園内にたくさんあります。本当に良く回転します。

写真③

★8月23日まで夏の企画展が開催中！
飛ぶタネに関するコーナーもあるよ。見に来てネ！



～自然観察舎 湿地の観察会のご案内～

自然観察舎では自然解説員と一緒に「自然生態園」の木道を歩く観察会を実施しています。費用は無料です。定員：各回当日先着25名

実施日	土曜日・日曜日・祝日
実施時間	10:00～10:30
	11:00～11:30
	13:30～14:00
	14:30～15:00

発行日：2015年8月1日
 発行：21世紀の森と広場パークセンター
 開館：9:00～16:30（7月21日～8月20日 9:00～18:00）
 月曜休館（祝日開館／翌日休館）
 〒270-2252 松戸市千駄堀269
 TEL 047-345-8900
 MAIL mckouen21@city.matsudo.chiba.jp